

開館10周年特別展「インド 沙漠の民と美」

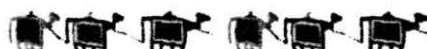
第20回・第21回展のご案内

一般財団法人 **岩立フォークテキスタイルミュージアム**

国内外ともに様々な問題が生じ落ち着かない日々が続いていますが、新しい年度を迎えいかがお過ごしでしょうか？ 岩立フォークテキスタイルミュージアムは、皆様のご支援・ご協力により昨年11月に開館10周年を迎えることができました。展示の度に各地から足をお運びくださいましたお一人お一人に深く感謝を申し上げます。

今回の展覧会は「インド 沙漠の民と美」と題し、前期<グジャラート州 大地の針仕事>、後期<ラージャスターン州 伝統の木版更紗と絞り>として、パキスタンと国境を接するインド北西部の2つの州の染織品を2つの会期にわたり紹介いたします。同封のパンフレットは2会期分としてまとめました。

なお、本展から当館は従来の週3日(木・金・土)の開館日を週4日(木・金・土・日)といたします。沢山の皆様のご来場をお待ちしております。



未知の染織品を求めてインド全土をさまよひ歩き10年がたった1980年代、デリーで沙漠の手仕事に出会いました。当時、インド北西の沙漠地帯はまさに忘れられた辺境の地でした。この沙漠で出会った人々とその地の手仕事の豊かさに、私は一瞬にして魅入られてしまったのです。何者かに導かれるようにして私はこの地に通い続けました。彼らの暮らしに触れ、手仕事の品々に向かい合うたびに、染織工芸の世界で求められる「個性」、「オリジナリティー」をはるかに超える普遍的な美しさ、力強さを発見しました。

1984年、日本民藝館で沙漠の手仕事を中心に「印度の民藝」展が開催されました。当時のインド大使が来賓としてお見えになり、「今にインドでもこの様な優れた手仕事が消えてしまい、インドの村からこのコレクションを見学に来る人がいるだろう」と語ってくださいました。私には印象深い言葉として記憶に残りました。

それから30年以上が経った2018年6月、大阪阪急うめだ本店で「カッチの布」展が開催されました。私が親しかった沙漠の人々の2代目、3代目の青年たちが職人のリーダーとして参加しており、インドへの帰途20人くらいのグループでここへ立ち寄ってくれました。私のコレクションを見せると彼らは夢中になって、写真やメモをとるのです。

確かに、インドの地から人々の暮らしからも今は豊かな手仕事が消えつつある時代になりました。

私が夢中になって集めてきたものを今再び、皆様にご覧いただければ幸いです。

2020 3月 館長 **岩立広子**



第21回 開館10周年特別展

インド 沙漠の民と美

(後期) ラージャスターン州 伝統の木版更紗と絞り

India: The People and Beauty of the Desert

Second term: Woodblock Prints and Tie-dyed Fabric from Rajasthan

2020年7月30日(木) - 11月8日(日) 木-日曜の10時-17時開館

岩立
フォークテキスタイル
ミュージアム



(前期) グジャラート州 大地の針仕事

First term: Needlework from Gujarat

2020年4月2日(木) - 7月12日(日) 木 - 日曜の10時 - 17時開館

刺繍の宝庫といえるグジャラート州の村々では、女性たちの針仕事が沙漠の暮らしを豊かに彩りました。過酷な環境の中で子供を無事に育てることは大切な母の使命、その思いを吉祥文や魔除けのミラーを施した刺繍に託しました。とりわけ、ラクダや羊、山羊を飼う牧畜民のラバーリーと呼ばれる人たちの間では幼児婚の慣習があるために、極めて華やかな子供服がありました。前期はそんな刺繍の豊富なグジャラート州、主にカッチ地方の染織品を紹介します。



1983年 グジャラート州カッチ地方にて



1



2



3



4



5



6

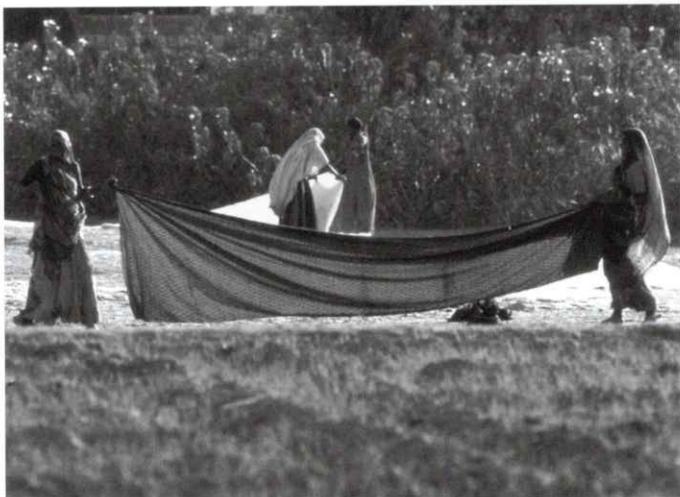


8



9

1. 子ども用衣装 カッチ地方 ラバーリー / 2. 女性婚礼用衣装 [アバ] カッチ地方 / 3. 男性祭儀用上衣 カッチ地方 ラバーリー / 4. 子ども用帽子2点 カッチ地方 / 5. 掛布 カッチ地方 / 6. 袋2点 カッチ地方 / 7. スカート [ガーガラ] カッチ地方 / 8. 掛布 サウラーシュトラ / 9. スカート [ガーガラ] カッチ地方



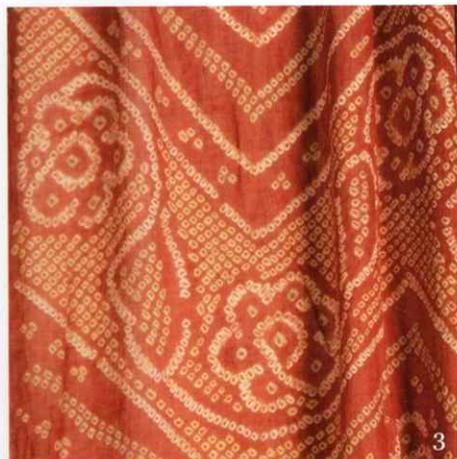
1983年 ラージャスターン州パグルーにて

(後期) ラージャスターン州 伝統の木版更紗と絞り

Second term: Woodblock Prints and Tie-dyed Fabric from Rajasthan

2020年7月30日(木) - 11月8日(日) 木-日曜の10時-17時開館

後期は、隣接するラージャスターン州の染織品を展示。州都であるジャイプル近郊には400年の伝統を持つ木版更紗の産地があり、村の暮らしに寄り添うように女性のスカート、被衣、袋、床敷き、壁掛けなどあらゆるものが使われてきました。また、布端から対角線に巻き、糸で括って染めることを繰り返す「ラハリア」や、日本の鹿の子絞りとした「バンドニ」と呼ばれるインド特有の絞り技法が施されたターバンや被衣も併せて紹介します。



1. 男性用衣装 ジャイプル / 2. ターバン 5点 ラージャスターン州各地 / 3. 被衣 [オルナ] コタ / 4. 被衣 [オルナ] サンガネール / 5. 端布 4点 ジャイプル / 6. スカート [ガーガラ] サンガネール / 7. (手前) 被衣 [オルナ] ジャイプル (奥2点) 布地 ジャイプル / 8. スカート [ガーガラ] ジャイプル

インド 沙漠の民と美

India: The People and Beauty of the Desert

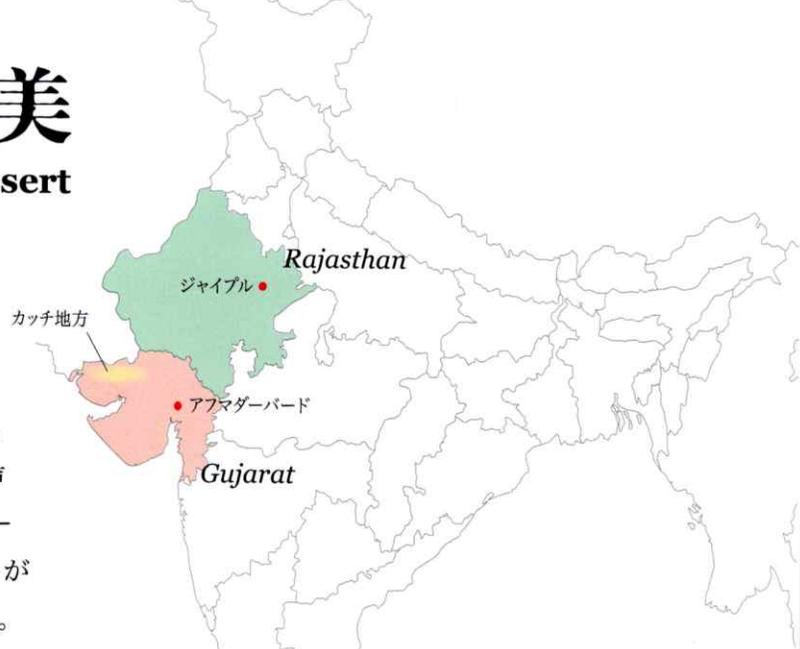
今回はミュージアム10周年記念を祝い、私の出発点となった「インド 沙漠の民と美」をテーマにした。

インド通いがはじまったころ、グジャラート州カッチ地方の伝統的なアジュラック染の職人、モハマッド氏の案内で私はある村を目指していた。その途中、8台の牛車が陽気な歌声と共に近づいてきた。近くに寄って話を聞くと、移動するラージプートの一団だった。女性のはいている木版更紗のスカートが美しく、どこで手に入れたか尋ねたら、近くの店にあるという。こんな沙漠の小さな村のなかでも、そのよろず屋には食料や雑貨とともに鮮やかなスカート生地が売られていた。前期の表紙の写真はその時のもの。また、カッチに着くやいなや訪れた、城塞の中にある小さなミュージアムで、極小のミラーを嵌め込んだ刺繍の衣装を見て驚いた。まるで小さなダイヤのような輝きだった。沙漠の奥にどうしてこんな精緻な刺繍があるのか信じられなかった。この時から、ここはただの沙漠じゃないと確信し、足繁く通うことに繋がった。

後期の表紙は私の木版更紗の目を開眼してくれた、染め職人のナライン師。彼との出会いはジャイプルの城下街の黒くすすけた職人街の一角だった。小柄なネルー帽の彼は通りすがりの訪問者に、脇に積んである出来上がった布を快く丁寧にを見せてくれた。彼と会話を続けるうちに、似たような小花にもそれぞれ名前があることや、400年もの歴史が職人たちの手で、細々だがしっかり残っていることを教わった。本当の師匠に出会った瞬間だった。彼の染めた木版染のスカートを私は今も愛用している。使えば使うほどに良さが分かり、文字通り一生使える布である。ある時、ANOKHIの創設者のフェイス氏に彼を紹介すると、伝統的な彼の仕事がファッションの分野に展開され始めた。彼女も、地味だけでも奥深いこの木版更紗に魅了された。その後、私自身もジャイプル周辺の様々な染場を回り、色々な木版更紗を集めて回ったが、彼の染めた布が一番地味で渋い。そこには実直な職人の姿勢が裏付けされている。だから飽きることもなく実用としてもファッションとしても通用し、とりわけて美しいと思う。また、ラージャスターン州の州都であるジャイプルの街はピンクシティとも呼ばれ、空の青さは格別、行く度に新鮮で、そういう自然の景色が布に結びついていると深く感じている。

「沙漠の民と美」とは、単にエキゾチックで珍しいものではなく、いくなれば美の原点。身の回りの限られた資源のなかで、長く使えて、飽きがこない。現代ではとてつもなく難しいことが、彼らの当たり前の世界だった。私の半生を魅了したインドの手仕事が新たなルーツとなってあちこちに根付き、将来の世界の手仕事を牽引する力になってほしい。当館の今後の活動も、同じ方向を向いている。

岩立 広子



Commemorating our ten year anniversary, this exhibition focuses on the handwork of northwest India. In the two terms of the exhibition, we will introduce beautiful dyed fabrics created by the people of the desert that the museum director Iwatate collected from her first trip to Gujarat and Rajasthan in 1970.

The first term exhibit will be of dyed fabrics from the Kutch district of Gujarat where embroideries and patchworks are abundant. The villages in the area are like treasure chests of women's needlework that colorfully enriched life in the desert: Children's clothes that women decorated with auspicious patterns and mirrors to ward off evil spirits with wishes for their daughters' happiness, ceremonial costumes for their husbands, and dowries.

The second term exhibit will be on dyed fabrics from Rajasthan. Located in the outskirts of the state capital Jaipur is the center of the woodblock-printed Sarasa (Chintz) production with four hundred years of tradition. Women's skirts, veils, bags, floor rugs, wall hangings and other items produced there are deeply connected to lives of those villagers. The exhibit will also include Leheriya, fabric dyed by rolling diagonally, tying, and dying multiple times, and turbans and veils made with a special tie-dye technique called Bandhani that resembles kanoko tie-dye in Japan.